

研究 主題	音や音楽を聴いて自分の思いをもち、自ら表現する授業を目指して —イメージを膨らませる場面づくりの工夫を通して—
----------	--

小学部A課程高学年部音楽科学習指導案

指導月日 令和3年10月18日（月）

所属校名 宮城県立名取支援学校

氏名：T1 佐藤 なほ子 T2～T12

1 単元名「思いに合った表現をしよう」

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

小学部A課程高学年部の音楽の授業は、5学年12名、6学年14名で行っており、知的障害の他に肢体不自由や自閉症、ダウン症の診断を併せ有する児童もいる。視覚的な支援が有効な児童が多く、児童へ問い掛ける言葉と共に絵カードや写真を提示することにより、理解が深まることが多く見られる。また、教師からの促しがあると、その促しを素直に受け入れる児童が多いが、授業の中で表現する場面を設けたときに、どのように表現すれば良いのか分からずにその場で止まってしまう児童の姿が見られていた。

I期の音楽の授業において、繰り返し技能を習得する場を設けたり、個々の実態に合わせた段階別の学習内容を準備したりすることにより、表現する技能が身に付き、自ら表現する児童の姿が多く見られるようになってきた。

身体表現では、音や音楽を聴くときに、場面をつくり出す教材（ちょうちょうに見立てたスカーフ、探検の途中にある草むらに見立てた緑の道など）を介することにより、イメージを膨らませて自分の思いをもつことができる様子が見られた。自分の思いをもつことができた児童の様子としては、蛇やカエルがいるかもしれない草むらに見立てた緑の道をつま先でおそろおそろ歩いたり、CDから聴こえてくる雨音を聴いて近くにあった机の下に隠れたりするなどの姿が見られた。

器楽では、学習指導要領に基づく1～3段階の各段階に応じた教材を準備して学習に取り組んだ。簡単な楽譜を見ながら電子キーボードを演奏するグループ、拍打ちをするグループ、楽器の音を出して楽しむグループの3グループに分けた。電子キーボードを担当するグループになった児童は、演奏を習得する喜びを感じたり達成感を感じたりする様子が見られた。一方、楽器の音を出して楽しむグループになった児童の中には、途中で集中力が途切れてしまう児童の姿が見られた。

鑑賞では、学習の導入や振り返りのときに、鑑賞する曲をイメージする写真を見せるようにしたところ、感じたことについて感想を述べるなどの様子が見られた。発語がない児童がどのような思いで鑑賞したのかについては、児童の表情から読み取ることはできなかった。

初めて取り組む活動には戸惑いを見せる児童もいるが、見通しを持たせたり経験を積み重ねたりすることで、徐々に取り組むことが増えていく様子が見えてきた。

(2) 単元観

「思いに合った表現をしよう」は、音や音楽に触れて教師や友達と一緒に、身体表現、器楽、鑑賞などの音楽活動を通して楽しみながら音楽への関心を高めることができる単元である。

身体表現は、簡単なリズムや旋律の特徴、体を動かすことについて思いをもつことができる題材である。音や音楽を聴いて体を動かす表現をする際には、児童にとって分かりやすい場面づくりをして取り組んできた。I期では、散歩や探検に行く場面づくりにおいて「歩く曲→走る曲→ちょうちょうの曲→一步一步確かめながら歩く曲→教師や友達とフラフープを持って回り、喜び合う曲」と、複数の曲を組み合わせることにより、児童が自分の思いをもって様々な動きを表現することが

できるように取り組んだ。児童自身がイメージしたことで自分の体の動きとが重なることで楽しさを感じる様子が見られるようになってきた。今回は、いくつか場面設定をする中でも特に、遠足等でも経験したことがあり、児童がイメージしやすいであろう「動物園に出掛けよう」という場面づくりを通して、自分の思いを表現させていきたいと考えた。

器楽は、器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつことができる単元である。6月・7月には、「エーデルワイス」の曲を学習する際に、自分から音を出したいと思うように児童の実態に合わせて3段階の段階別の演奏方法を準備して実践した。「エーデルワイス」は、簡単な楽譜を見ながら電子キーボードを演奏する児童にとっては適する曲であったが、他のグループに属する児童にとっては、拍を捉えにくい曲であったという反省が出された。そこで、高学年部の教師12名のうち、音楽担当者会メンバーの4名で再検討を行い、「威風堂々」という曲で取り組むこととした。「威風堂々」は、簡単な楽譜を作成することができ、また、拍を取りやすく、3グループ全ての児童が取り組みやすい曲である。

鑑賞は、鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くことができる題材である。コロナ禍の下、歌う活動は行わないため、「DVD：みんなの童謡」の中から、映像を見て、イメージを持ちながら歌唱に触れることができる曲を選んだ。

以上の単元を通して、音や音楽に触れ自ら表現する楽しさを感じる中で充実感を感じ、自ら表現することができる授業を目指していく。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえて、次のように指導していく。

- ① 身体表現では、「散歩に行こう」「探検に出掛けよう」に引き続き「動物園に出掛けよう」といった児童にとって分かりやすい場面づくりをすることにより、児童が自分の思いをもち、自ら表現することができるように工夫をしていく。その後、「温泉に入りに行こう」といった別の場面設定にも取り組んでいく。
- ② 器楽の学習では、I期の学習と同様に、児童の実態に合わせて1～3段階の各段階に応じた教材を準備して実践する。1段階にあたる楽器の音を出して楽しむグループでは、途中で集中力が途切れてしまう児童がいるという実態から、児童1人に対し楽器を2～3種類、用意しておくこととする。また、行進曲である「威風堂々」の曲が持つイメージが伝わるように、教師が曲に合わせて行進する様子を見せてから、器楽演奏の練習に取り組むこととする。
- ③ 鑑賞では、鑑賞後に曲に関係のあるものを複数、児童の目の前に提示し、曲を聴いてイメージするものを選ばせることで、発語のない児童にも思いを伝えることのできる手立てを講じていく。また、鑑賞前に曲に関係するものを提示することは、児童の鑑賞への思いを限定的なものにしてしまうことが考えられるため、振り返りができる鑑賞後に選ばれる場を設けることとする。
- ④ 障害特性に応じて、身体表現、器楽、鑑賞などの学習内容を1単位時間の授業の中に複数組み入れていくことにより、児童の集中力が途切れないようにする。また、毎回の授業の流れを一定にすることで、児童が見通しを持ち、安心して学習に取り組むことができるようにする。
- ⑤ 授業の中で頑張っていた児童の様子を全体の前で披露し、称賛する機会を設けることで自己有用感や次の学習への意欲を持たせるようにする。また、互いの様子を見せることにより、友達を意識したり認めたりする力を養うようにする。
- ⑥ 本校の「学習指導計画」に基づいて、小単元（4～5時数分）の学習指導計画（A4用紙1枚程度）を作成し、PDCAサイクルにより指導の改善を図っていく。学習指導計画を基に音楽担当者会で話し合う際、習得すべき「知識・技能」の目標を段階別に明確にしておくことで、個々の児童の実態に合わせた指導内容の充実につなげる。音楽担当者会では、指導開始前にT1が立てた学習計画の見直しを行い、計画を修正することとする。
- ⑦ 音楽の授業に関わる高学年部の教師12名が集まって事前検討会・事後検討会をするときに、以下の点に基づき、話し合いを行う。

- ・児童が自分の思いをもって表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

自分の思いを表現することを学習ごとに捉えた内容は、以下の通りである。

（身体表現）場面をイメージして、自分のできる方法で表現する。

（器楽） 曲のイメージを持って演奏する。

（鑑賞） 音楽を聴くことを楽しみにして取り組み、感想を持つ。

- ・音楽活動をする楽しさを感じながら、児童が主体的に音楽活動に取り組もうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

※コロナウィルス感染対策として、今年度、歌唱指導は行わない。また、学年部合同授業は15分間とし、その後は、学級ごとに分かれ、各教室で授業の続きを実施する。（学校としての対応策）

3 単元の目標

- (1) 音や音楽を聴いて、リズムの違いに気付くことができる。〔知識〕

音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽の技能を身に付けることができる。〔技能〕

- (2) 身体表現では、音や音楽を聴いて、場面をイメージして自分のできる方法で表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

器楽では、曲のイメージを持って演奏することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

鑑賞では、音楽を聴くことを楽しみにして取り組み、曲全体を味わって聴くことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

- (3) 教師や友達と一緒に音楽活動をする中で、学習に興味を持って取り組み続けようとする。「学びに向かう力、人間性等」

4 研究主題との関連

研究主題である「音や音楽を聴いて自分の思いをもち、自ら表現する授業を目指して」に迫る手立てとして、以下の手立てを講じていく。

- (1) 自分の思いをもたせる工夫

身体表現では、児童が自分の思いをもつために、児童にとって分かりやすい場面づくりをする。例えば、動物園に行く場面づくりのときに、動物園をイメージする効果音が流れる中で動物園のゲートに見立てた入り口をくぐる。そのことにより、音や音楽とイメージする場面とを重ねることができるようにしていく。また、カンガルーやペンギンの動きの曲を流した後に本物の動物が動いている動画を見せて、その動きを児童に再現させることにより、児童が思いをもって表現することができるようにしていく。単元の中では、6種類（うさぎ、ペンギン、チーター、カンガルー、象、とんぼ）の動きを表現させていく。この6種類を設定した理由は、動物園や図鑑、映像で目にする機会が多いことや動きに特徴があることにより、児童がイメージを持ちやすいと考えたからである。児童がイメージを持つことができれば、思いをもって表現することができると考えた。また、「温泉に入りに行こう」では、バスに乗って温泉の場所に着き、「男」「女」ののれんをくぐってお風呂場に入るといった場面づくりをする。温泉の雰囲気を出すおけやタオルを準備しておき、友達の背中を洗う曲が流れた後に友達の背中を洗うように促していく。

器楽では、行進曲である「威風堂々」の曲が持つイメージが伝わるように、教師が音楽に合わせて行進する様子を見せてから取り組ませる。また、「こぐまの二月」では、曲が持つイメージが伝わるように、写真と共に歌詞の説明をしてから取り組ませる。

鑑賞では、鑑賞後に曲に関係のあるものを、児童の目の前に複数提示し児童が曲を聴いて手にしたいと思ったものを選ばせることで、思いを伝える手立てとする。

- (2) 選曲の工夫

楽器演奏の場面では、個々の児童の段階に合わせてリズム打ちや演奏の指導をしていく。本校小学部では、学習指導計画を作成する際に「おんがく☆～☆☆特別支援学校小学部知的障害者用（文

部科学省著作教科書小学部音楽科）」を参考にしている。その教科書と学習指導要領で共通教材として示されている曲，更に過去に本校の授業で取り上げられた曲をまとめ，系統性のある段階別選曲表を作成する。選曲表を活用し，児童の実態に合った曲を教材とすることで，自ら表現する児童の姿につながると考えた。

(3) P D C A サイクルによる学習指導計画の立案

学習指導計画を立案する T 1 が学習指導要領に基づく「習得・活用・探究」のうち，特に「習得」に着目し，児童が習得すべき知識・技能について学習指導計画の中に明記する。何を習得するかを明確にしておくことにより，習得した知識・技能を活用し，探究することにつながっていくと考えた。

音楽担当者会のメンバー 4 名のうち，主担当になった T 1 が立案した学習指導計画を基に，音楽担当者会において単元の目標設定の妥当性について検討をする。その結果を経た学習指導計画に基づき，音楽の授業に関わる高学年部の教師 12 名が各担当児童の目標に対する手立てを考え，授業実践を行う。小単元（4～5 時数分）の学習後，12 名の教師が各担当児童の学習評価をする際，手立ての有効性に加え，「児童の学習内容を次の段階へ進めることができるか」について判断し，音楽担当者へ伝える。その評価をまとめ，音楽担当者会で話し合い，次時の小単元の目標と学習内容を検討し学習の計画を立案していく。このような過程を通して学習指導計画の検討を繰り返すことにより，「個々の児童の学習評価が全体の学習指導計画の立案につながる P D C A サイクル」となるよう目指していく。

5 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 音や音楽を聴いて，リズムの違いに気付いている。〔知識〕 - 音楽表現を楽しむために必要な身体表現，器楽の技能を身に付けている。〔技能〕	- 身体表現では，音や音楽を聴いて，場面をイメージして自分のできる方法で表現している。 - 器楽では，曲のイメージを持って演奏している。 - 鑑賞では，音楽を聴くことを楽しみにして取り組み，曲全体を味わって聴いている。	教師や友達と一緒に音楽活動をする中で，学習に興味を持って取り組み続けようとしている。

(2) 単元の全体計画（Ⅱ期：9 月～1 月）13 時間扱い（本時 3 / 13）

小単元名	主な学習活動	時数
思いにあった表現をしよう①	・ 始まりの歌：「ともだち賛歌」を聴いて，リズムに合わせてタンブリンをたたき，学習が始まる気持ちを高める。 ・ 身体表現：「リトミック：動物園に出掛けよう」音や音楽に合わせて体を動かしたり，音や音楽を聴いて自分の思いを表現したりする。 ・ 鑑賞：「DVD：みんなの童謡」を鑑賞して，感想を発表する。 ・ 器楽：「威風堂々」の曲に合わせて演奏をする。	5 (本時 3 / 5)

	友達の演奏を聴く。 ・終わりの歌：「これでおしまい」の曲を聴いて、歌詞を手話で表現する。	
思いに合った表現をしよう②	・身体表現：「思いに合った表現をしよう①」で「動物園に出掛けよう」の動物6種類を学習したので、「思いに合った表現をしよう②」では、繰り返し取り組むことにより更に習得を図り、「動物園に出掛けよう」の音楽劇を楽しむことができるようにする。 ※始まりの歌、鑑賞、器楽、終わりの歌については、「思いに合った表現をしよう①」と主な学習活動は同様である。	4
思いに合った表現をしよう③	・始まりの歌：「ともだち賛歌」を聴いて、リズムに合わせてタンブリンをたたき、学習が始まる気持ちを高める。 ・身体表現：「リトミック：温泉に入りに行こう」音や音楽に合わせて体を動かしたり、音や音楽を聴いて自分の思いを表現したりする。 ・鑑賞：「DVD：みんなの童謡」を鑑賞して、感想を発表する。 ・器楽：「こぐまの二月」の曲に合わせて演奏をする。教師や友達の演奏を聴く。 ・終わりの歌：「これでおしまい」の曲を聴いて、歌詞を手話で表現する。	4

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・「威風堂々」の曲を担当する楽器で演奏することができる。〔技能〕
- ・音や音楽を聴いた後に動画や写真を見ることにより、音や音楽と動物の動きを結び付けて、自分のできる方法で体を動かすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 本時の指導に当たって

音や音楽を聴いて児童が個々に持ったイメージを大切に、表現活動を促していきたい。

身体表現「動物園に出掛けよう」では、動物園で出会う動物になってみよう伝え、音や音楽を聴いて身体表現する活動を行う。本時で新しく出会う動物は、ペンギンである。ペンギンの動きの曲を流した後に、本物のペンギンが動く動画を見せ、その動きを児童が感じた動きで表現させる。動物の動きの表現があって、そこに音や音楽が加わるのではなく、音や音楽を聴いた後に、動物の動きの表現が生まれてくるという流れを大切にしていきたい。また、ピアノから聴こえてくる音や音楽に注目できるように、別の動物が登場する際には、音や音楽の間に意図的に間を持たせ、児童が静止する時間を設けることにより、次の音に注目させていく。

器楽では、器楽表現に思いをもつことができるように、演奏の前に「威風堂々」の曲を流しながら教師が行進をする様子を見せ、曲への思いをもたせてから練習に取り組むこととする。また、CD音源に合わせて練習をするときに、前奏の部分をよく聴いて拍を意識することができるように言葉掛けをしていく。

鑑賞では、鑑賞後に、秋に関係のあるもの（複数用意しておく）の中から児童がイメージする秋のものを選択する場を設ける。選択した児童が、どのようなものを選んだのかを児童全体の前で紹介することで、選んだ児童の自己有用感を高めていきたい。また、授業の振り返りをする中で児童が感じた曲への思いを深めていきたい。

(3) 児童の実態と個別目標及び評価[別紙1]

(4) 指導過程[別紙2]

(5) 本時の評価

- ・「威風堂々」の曲を担当する楽器で演奏することができたか。〔技能〕
- ・音や音楽を聴いた後に動画や写真を見ることにより、音や音楽と動物の動きを結び付けて、自分のできる方法で体を動かすことができたか。〔思考・判断・表現〕

(6) 準備物

ホワイトボード，タブレット端末，モニター，CDデッキ，CD，動物園のゲートに見立てた発砲スチロールで制作したゲート，ピアノ，写真，電子キーボード，グロッケン，音積み木，マラカス，鈴，タンブリン，自作楽器，パーランクー，秋をイメージするもの

(3) 児童の実態と個別目標及び評価[別紙1]

氏名(学年・性別)	A(小5・男)	B(小5・女)	C(小5・女)
児童の実態	・知的障害・自閉症スペクトラム症 ・自ら音を聴いて音に合わせて表現することができる。 ・4年生まで拍打ちはしてきたが、楽譜を読んで演奏することはできていない。5年生時の6～7月に取り組んだ「エーデルワイス」の楽譜を見て電子キーボードを弾くことができるようになり、自信を付けた。	・知的障害・ダウン症 ・教師や友達の動きを見ることによって模倣して表現することができる。 ・歌が好きで、音楽が鳴る絵本を持って歌を口ずさんでいることもある。 ・拍打ちでは、譜面を見ることはしないが、教師がそばでB児の背中をトントンとたたき支援を続けたことで、拍を打つことができるようになってきた。	・知的障害・精神運動発達遅滞 ・身体表現では、「歩く→走る」などの速さの変化に気付いて動きを変えることは難しいが、曲が止まると動きが止まるので、曲を聴いて感じている様子である。 ・楽器に興味があり、鳴らして楽しむことができるが、1つの楽器を鳴らし続けると集中力が続かないことがある。
本時の個別目標	① 楽譜を見て、リズムに気を付けながら電子キーボードを演奏することができる。 ② 音や音楽と動物の動きを結び付けて、動物の動きの特徴に合った動きをすることができる。	① 拍に合わせて、パーランクーを打つことができる。 ② 音や音楽を聴き、教師や友達の動きを見て、動物の特徴のある動きを表現することができる。	① 教師の支援を受け入れて楽器を鳴らし、楽器の音色を楽しむことができる。 ② 教師や友達の動きを見て、模倣することができる。
手立て	① 色分けされた楽譜を見て電子キーボードを鳴らすことができるように、弾いている譜面の箇所を人差し指で示す。 ② 動物の動画を見るときに、動物の動きのどこに注目して見るか、そばで伝える。	① 拍打ちをできるように、教師が児童の背中を拍に合わせてトントンとたたいて拍を教える。 ② 動物の動きを表現したときや友達の動きを模倣したときに、称賛する。	① 教師が示範として同じ楽器を児童の目の前で鳴らす。本児の興味・関心に合う楽器を2～3種類準備しておく。 ② 模倣しやすい動きであるうさぎのジャンプやペンギンの手の動きなどができるように、児童の隣で示範をする。
評価の観点	① 伴奏曲に合わせて、演奏することができたか。 ② 音や音楽を聴いて、自分から動物の動きを表現することができたか。	① 伴奏曲に合わせて、拍を打つことができたか。 ② 教師や友達の動きを見て、動物の動きを表現することができたか。	① 伴奏曲や友達の演奏を聴き、教師の支援を受け入れて楽器を鳴らし、音色を楽しむことができたか。 ② 教師や友達の動きを模倣して、動くことができたか。

（４）指導過程【別紙２】

時間	主な学習活動	教師の働き掛け(○), 指導上の留意点(※)			準備物
		A (主にT1)	B (主にT1)	C (主にT5)	
導入 2分	1 始まりの歌 ・「ともだち賛歌」の曲を流し、授業の始まりを意識する。	○「始まりの歌」を歌いながら、タンブリンを児童の前に出す。 ※タンブリンのたたき方は、児童の実態に合わせて、一人であたり児童と教師が児童の目の前にタンブリンを差し出したあたり児童とで、指導方法を変える。			ホワイトボード、タブレット端末、モニター、タンブリン
	2 身体表現 「動物園に出掛けよう」 ・「歩く→うさぎ→ペンギン→チーター→寝転がる→歩く→とんぼ→歩く」の音を聴いて体を動かす。	※教師の模倣をしてタンブリンを自分でたたき、称賛する。 ※タンブリンをたたき、称賛する。	※自分からタンブリンをたたき、称賛する。	※タンブリンをたたき、目が分るよう、目の前に差し出す。 ※自分からたたかない場合は、教師が言葉掛けをして手本を示す。	
展開 37分		○ペンギンの動きの曲を聴かせた後に、本物のペンギンが動く動画をテレビで見せる。その後、児童が感じた動き（1つ）を他の児童に紹介する。紹介後、全員で手本となる児童が表現した動き（1つ）を他の児童に出掛けよう」の音楽劇を始める。【習得】 ○動物園のゲートより、動物園に到着したイメージをもつことが出来るようにする。※動きが少ない児童や動こうとしない児童には、隣で教師が手本を見せて促す。 ○曲を聴かせるときに曲の間に間を取ることでより児童を静ませ、次の曲が何かという聴く姿勢を持たせる。 ○上手にできた児童を1名選び、全員の前で身体表現（1種類）を披露するよう促す。代表児童の動きのどの部分がよかったのかを児童全員に伝え、その部分に注目させる。【習得】			動物園のゲートに見立てた発砲スチロールで制作したゲート、CDデッキ、CD（動物園をイメージする音）、ピアノ、イラスト写真
		※自ら表現することができたときには、称賛する。	※近くで手本を見せる。 ※教師や友達の動きを見ることに夢中になっている	※「とんぼになって動きを止める」や「寝転がる」などの体勢が大きく変わる	

3 鑑賞「DVD：みんなの童謡」 ・ちいさい秋みつけた 4 器楽「威風堂々」 1) 全体で演奏をする。	場合、模倣するよう言葉掛けをする。 ○テレビの場所へ移動するように促し、鑑賞させる。【習得】 ※鑑賞後、秋に関係のあるものを児童の前に複数提示し、「秋を見付けてみよう。 ○○さんの秋は、どれかな。」とちいさい秋を選択して発表する場を設ける。選択する児童は、1期に自分の言葉で発表をした児童以外の児童を優先的に指名することとする。（発表児童：2名）【活用】 ○本時で演奏する楽器の場所に移動するように伝える。 ○拍のテンポは、CDに速度の違う3種類の違う3種類の演奏の様子を見て決めていく。 ○「威風堂々」は、行進曲である。行進する様子の写真と一緒に教師が音楽に合わせて行進して見せる。 ※簡単な楽譜を見ながら電子キーボードを演奏する児童、拍打ちをする児童、楽器の音を出して楽しむ児童の3つの段階に分かれて演奏をする。練習を積み重ねる中で、次の段階へステップアップができると見取れた児童は、次の段階の手立てで練習をする。【習得】 ※楽器の音を出して楽しむ段階の児童用の楽器として、自作楽器など、一人につき2～3種類の用意をしておく。教師が模範を示すことができるように、児童と同じ楽器を教師分も準備しておく。 ※電子キーボードの譜面を教師が指差しをして、見られるように促す。	場場合は、模倣するよう言葉掛けをする。 ※拍打ちの譜面を見るときに促す。 ※拍打ちができないときには、「教師が拍に合わせてパーランクーを児童の前に出したときに児童が打つ」という方法で取り組ませる。	る部分」は、変化に気付くことができるように言葉掛けをしたり近くで手本を示したりする。 ※楽器を差し出して見守り、本児が音を出すことを待つ。 ※教師が同じ楽器の音を出して、音を出すことを促す。	タブレット端末、モニター、DVD、秋をイメージするもの 各学級に配る楽器 (電子キーボード、グロッケン、音積み木、マラカス、鈴、パーランクー、自作楽器)
---	---	--	---	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--